令和2年度　地域自立支援協議会交流会　参加報告

１　主　催　　　東京都自立支援協議会

２　と　き　　　令和２年９月２８日（月）１３時３０分～１６時

３　ところ　　　東京都社会福祉保健医療研修センター（文京区）

４　参加者　　　７０人（名簿上）

５　テーマ　　　当事者が「語る」ことを「聴く」には？

　　　　　　　　～当事者の声を聴き、具体的な取組を持ち帰ろう～

６　時　程　　　（１）全体会　（ビデオ放映）

　　　　　　　　　　　①開会の挨拶　（東京都心身障害者福祉センター所長　）

　　　　　　　　　　　②ミニシンポジウム

　　　　　　　　　　　ア　テーマを選んだ理由「当事者の声が反映される協議会づくりに向けて」

イ　参加して考えていたこと、続けられないと思ったこと、ほしかったこと

ウ　コーディネーター・グループ討議オリエンテーション

　　　　　　　　（２）分散会　（１１グループに各６～７人の分散会）

　　　　　　　　　　　①自己紹介・ミニシンポジウムの感想

　　　　　　　　　　　②テーマ１「それぞれの自立支援協議会の課題共有」

　　　　　　　　　　　③テーマ２「自分たちの地域（協議会）へ持ち帰ること

７　感　想

（１）委員

ミニシンポジウム〈動画視聴〉で登壇されていた障がい当事者の「●**点字やルビふりは、伝えること。伝えるのではなく当事者に聞くことが大事。**」と云った言葉、（障がい当事者が参画する上で）「合理的配慮はあくまでスタートライン」と云った言葉に私は強い共感を覚え、それが都全体でも進展がないのが実情なのだろうと〈動画視聴〉を通して思いました。グループ討議では、「地域自立支援協議会において、障がい当事者の定義とは何だと思いますか。」と私が前年度から委員として携わるなかで疑問を抱いていたことを、他市の方々に質問として投げかけてみました。そこで挙がった意見として「法律や制度、時代によってその定義は変ってきた。」との意見が挙がっていたのですが、そうした根本的なこと１つとっても障がい当事者委員が会議体に出席するに辺り〈不足し、求めているニーズ〉と、健常者の委員の方々や行政の方々が〈想い描く障がい当事者像〉に確かな開きが狭間みられました。現在の小平市に置き換えて考えてみますと「障がい当事者参画に関して」は参画する必要性を適切に参画している障がい当事者委員の目線で認知されておらず、その基盤〈インフラの向上＝ハード面・ソフト面のバリア解消策〉構築１つとっても様々な要因（想定されること：財政面の課題、人材不足の問題・役割分担等々が挙げられます。）がある事で、道半ばです。ですが「当事者部会を作る会」発足当初から、何をどの様に取り組めば良いか。模索しながらも取り組んできた姿勢や令和2年度9月25日に開かれた専門部会（当事者・情報部会）で委員より実演があったツール（ICT機器）を用いる方法を学ぶ機会を設けたことが転機となりえる試みだと私は考えています。現実的にどの程度、今後の会議体で取り入れられるのかを検討を重ねることは今後の課題としてあります。ですが、「移動に負担を抱く障がい当事者」や「物理的バリアがあることで会場に出入りが困難な障がい当事者」が委員として将来、参画することを見据えた時に具体的に之から取り組める試みではないでしょうか。そうした行為に着目して行うことこそ〈不足し、求められるニーズ〉に対応しての「合理的配慮」だと考えます。当事者の意見に傾聴する価値を自分事として見出して着目することが、非常に大事です。小平市地域自立支援協議会が「障がい当事者参画に関して」現状より発展的に障がいの有無に限らず会議が行える場になる環境整備を図るところからだと現状をみていて感じます。

私は今回の東京都地域自立支援協議会交流会に足を運び上記の内容を持ち帰ってきたことを報告させて頂きます。※課題を課題で終わさないで下さい。

（２）委員

都内の他の自治体の取り組みが聞けた。今回のテーマの当事者の声を聴くためにしていることとして、ある区部では私たちがなぜ解決できないのか、ワーキングで困難事例の検討に当事者スタッフも入ってもらい事例検討会で話している。また、すべての部会に障害者当事者部会がかかわっているという自立支援協議会もあった。

感想として、当日協議することの多い会議体では、所属の違いや、情報の理解度、分野など異なる為、議題一つ一つに理解の差がある事を感じた。可能な限り個人の理解度の確認を行う事が必要ではないかと思う。必要によって、事前の準備が必要であると感じた。

（３）委員

例年より参加者は少ないが、工夫して開催する努力を感じた。会議テーマが必ずしも当事者の話したいことではなく、当事者の悩みだと感じました。支援要請する「アクション・カード」、もやもやした会議内容について質問できる「リアクション・カード」を使用し、会議中や前後に説明を受けられる地域がありました。

<参考>「事前アンケート」※各地区委員等から寄せられた回答は17ページあります。

**１　当事者が「語る」ことを「聴く」ために、あなたが参加している地域自立支援協議会の場でどのような取組が　必要だと思いますか？**

（自由記載）障がい当事者とのこまめなコミュニケーションを意識することが、大事である。　小平市は推薦団体から選ばれた障がい当事者が委員として会議体に参画している。しかし、行政主導の会議体（地域自立支援協議会を指す）という意味合いもあり、課題が生まれている。推薦団体との連携と云う点に着目する委員は乏しい印象も抱く。現在は「推薦団体はあくまで任意団体であり行政主導の会議体とは区別してと云う視点に重きを置く委員」や「障がい当事者委員の必要性に理解が乏しい」そんな委員もいる。また推薦団体にも個別な障がい当事者への「具体的なフォロー」に課題があり、障がい当事者委員から「語る」と云うことは市全体の「障がい当事者参画に関する」取組を俯瞰して考えた時に現在は困難な状況にある。地域に住む障がい当事者の「語る場」と「それを聴く場」として既に専門部会（当事者情報部会）の下に作業部会（以後、ワーキングと示す）と云う懇談会の場を設けている。ワーキングに関しては、情報保障（PCソフトの遠隔ツールが1例として挙げられる）を整える為に、その情報収集を勧めること・ハード面のバリアを解消させる為に試行し、ワーキングへの参加人数の有無に拘らず当面（1～2年）それを切り開く取り組みが必要だと考える。今後を展望すると、上記で挙げた課題に対して、具体的にどの様にアプローチを示すか、今後も障がい当事者推薦と云う形式で連携を図るならば「任意団体」「行政主導の会議体」と切り分ける視点だけではなく、目の前に居る障がい当事者委員の視点を傾聴する他に、将来も行うワーキングをより発展的に行える様に環境整備を行う必要性がある。

**２　当事者が「語る」ことを「聴く」ために、あなたが参加している地域自立支援協議会で改善した方がよいと思われる点はどのようなことですか？**

（自由記載）　時間の担保を保証すること